

# Monthly Report

## 2022模擬授業ワークショップ「せんだい実習」を開催



集合写真

9月10日、11日の2日間にわたり、2年目となる模擬授業ワークショップ「せんだい実習」を宮城教育大学とともに開催いたしました。この実習は、両大学の保健体育科教諭を目指す学生を対象に、授業研究を通して授業づくりに求められる実践的な力を育むことを目指して実施したものです。今年度は本学の震災復興記念プールを会場にして、本学からは教職を目指す学生で構成する「チーム教授」の学生20名と本学ならびに宮城教育大学の教職員5名、さらには県内外より公立小中学校の現職教員4名（仙台市小学校、大河原町小学校、福島県白河市小学校、山形県酒田市中学校）が参加し、熱心に声かけをしていただきました。

今年度の内容としましては、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方について安全への理解を一層深めるために「水泳」（自己保全能力）をテーマとした模擬授業を学生が実施し、模擬授業後には検討会を設け、授業の成果と課題について互いの学生・教職員と共に分析検討を行い、さらには指導助言として学習指導要領作成にも携わられている山形県立上山明新館高等学校の佐藤教頭先生より講話をいただくなど、たいへん有意義な学びへの繋がりとりました。

この取り組みは、宮城県ならびに東北地区の体育科教育を担える教員の育成に向けて継続していくこととしています。

<教職支援課>



実習中の様子

### <目次>

|  |   |
|--|---|
| ・2022模擬授業ワークショップ「せんだい実習」を開催  | 1 |
| ・「仙台大学DX人材育成プログラム」修了式<br>・令和4年度9月期 仙台大学「卒業証書・学位記」授与式を挙行<br>・青森県と就職支援に関する協定を締結しました            | 2 |
| ・柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業「シン・町ジム」を開始しました<br>・桐蔭横浜大学とスポーツ情報サポート研究会による交流会を開催!                         | 3 |
| ・3年振りに本学を会場に令和4年度体育科・保健体育科研修会を実施<br>・丸森ひまわりこども園、保育研究大会で優秀発表施設に選出                             | 4 |
| ・令和4年度仙台大学同窓会根室・釧路支部総会を対面開催<br>・仙台大学大学院の紹介動画を制作しました  | 5 |
| ・アスリート必見!アメリカの大学ってどんなところ? Part. 2  | 6 |
| ・大会結果/JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 52kg級で中島幸徳が3位入賞<br>・柔道部/東京五輪女子52kg級金メダルの阿部詩選手が本学で合宿 | 7 |
| ・仙台大学が天皇杯ファイナルラウンドへの切符を掴む  | 8 |
| ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.53  | 9 |

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## 「仙台大学DX人材育成プログラム」修了式

9月15日(木)に「仙台大学DX人材育成プログラム」の修了式がオンライン形式で執り行われました。このプログラムは、8月に文部科学省が推し進める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として認可されたものです。

式では高橋学長から、「国がデジタル人材を養成する背景には、社会が既にそうになっているからであり、本学もその流れに乗って、先ずはリテラシーレベルを整備したところです。今回の皆さんの成果を知識に変えて、更に学びを深めてほしい」と激励の言葉が送られ、学生たちは今後の社会生活におけるデータサイエンスの重要性を再認識していました。

修了証の授与は、プログラムに因んで、本学では初の試みとなるデータ配布で実施され、学生236名に対して各々の修了証(PDF)が一斉メールで渡されました。



## 令和4年度9月期 仙台大学「卒業証書・学位記」授与式を挙

9月26日(月)本学A棟2階大会議室で令和4年度9月期 仙台大学「卒業証書・学位記」授与式を挙行し、体育学部2名(体育学科1名、スポーツ栄養学科1名)及びダブルディグリー制1名、並びに大学院1名の4名が新たな一歩を踏み出しました。

高橋仁学長からは「これから思い通りにならないことも待ち受けていると思いますが、それは誰にでもあることで、それを乗り越え、社会人として成長して下さい」とのはなむけの言葉が送られました。

また、ボブスレー競技において国際大会に日本代表として出場し、活躍したことにより学長賞を受賞した金子慶輝さん(大学院・スポーツ科学2年)は「大学3年からボブスレー競技を始め、多くの方々に支えられて北京五輪を目指してきたことは貴重な経験となりました」と感謝の言葉を述べました。



## 青森県と就職支援に関する協定を締結しました

9月21日(水)青森県庁で青森県と就職支援に関する協定を結びました。

この協定は本学の青森出身の学生及びその保護者に対して、青森県内の企業情報や奨学金の返還支援制度に関する情報を提供し、地元就職の促進を図ることを目的としています。

高橋仁学長は「青森で頑張りたいという学生も多いので、学生の希望に応えるような就職支援情報をしっかりと発信していきたい」と述べました。



協定書に署名した三村申吾青森県知事(左)と高橋仁学長

## 柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業「シン・町ジム」を開始しました



9月4日（日）より本学トレーニングセンターで柴田町運動・スポーツ習慣化促進事業「シン・町ジム」を開始いたしました。「シン・町ジム」は2019年に開催された「健康タウンしばたプロジェクト+2019」を引き継ぎ、柴田町より委託を受けた事業になります。

本事業は“あなたの町ジム”をモットーに柴田町民及び在勤の方々へトレーニングセンターを開放し、運動を始めるきっかけづくりや運動の継続を促します。今年度は対象年齢を30歳から概ね60歳までとし、これまでスポーツに馴染みのなかったビジネスパーソンの方々を中心にご参加いただいております。期間は9月4日から12月11日までの期間で、計8回の開催です。

9月4日と9月11日の学生によるきつねダンスのプログラムでは、参加者と学生が一緒になって踊り、その後の筋力トレーニング教室やストレッチポール教室などでも、多くの笑顔が見られ、終始和気あいあいとした雰囲気のなか皆で汗を流しました。

3回目以降も町民の方々へ運動の楽しさを伝え、ひとりでも多くの方に運動を続けていただけるよう各種プログラムを実施いたします。

<スポーツ健康科学研究実践機構>

## 桐蔭横浜大学とスポーツ情報サポート研究会による交流会を開催！



8月31日（水）に本学のスポーツ情報サポート研究会に所属している学生と、桐蔭横浜大学のスポーツ情報戦略を学んでいる学生同士でオンライン交流会を行いました。今回の交流会は、①大学・学年・競技の枠を超えて交流を図る、②多様なものの見方と考え方に触れる、③専門外の競技分析を通して視野を広げることを目的として行いました。

はじめはお互い緊張の面持ちで自己紹介をしていましたが、分析ソフト「SPLYZA Teams」を活用した、メインのグループワークで卓球の分析に取り組む中では、活発にディスカッションをする姿が見受けられました。

交流会終了後のアンケートには、「最初は全く話せず終わってしまうと考えていたが、想像以上に様々な話のできたのでとてもいい経験になった。」という感想や、「さらに深いところまでお互いを知り、活動を共有できたら面白いと思う。」といった感想を書いていました。

今回の交流会は、昨年度まで本学科の教員として在籍されていた溝上先生（現在は桐蔭横浜大学の教員として勤務）との繋がりで実現しました。今後も継続的に交流を行い、お互いの学びの深化に繋げていければと考えています。

<スポーツ情報サポート研究会>

## 3年振りに本学を会場に令和4年度体育科・保健体育科研修会を実施



9月15日、21日の2日間にわたり、宮城県教育委員会主催の「令和4年度体育科・保健体育科研修会(小学校)(中・高等学校)」が本学を会場として3年振りに行われました。

県内の小中学校、高校の若手や中堅の教員57人に本学の学生が(15日:13人、21日:18人)加わり、グループに分かれて意見を交換しました。

この研修会の狙いは、本学の先生方から最新の指導法と知識を学ぶこと、同じ体育を指導する立場として授業づくりについての情報交換をすること、ICT機器活用の視点を取り入れた授業づくりを演習することを通して、受講者一人一人の専門性を高めるとともに、授業力の向上にあります。また、学生は現職教員との協働活動や話し合いを通して、具体的な教師像を感じることができ、キャリア形成の場として活用しました。

今年度の内容は、15日に宮崎利勝准教授による「小中高の系統性を踏まえた授業づくり～陸上競技(跳躍の運動)の授業づくり～」。小学校を対象に高崎義輝教授、郡山孝幸教授、入澤裕樹准教授による「児童の運動意欲が高まる指導法～体づくり運動「スポーツテンカ」を通じて～」。中高を対象に川戸湧也講師による「生徒の運動意欲が高まる指導法・教材の工夫～武道～」。21日に石丸出穂准教授の「小中高の系統性を踏まえた授業づくり～球技(ネット型)の授業づくり～」。そして講義・演習で学んだ内容も踏まえて、学習指導案の作成が行われました。

今回の研修会に参加した学生は教員が努力する姿を見てモチベーションを更に高め、指導案作り等の指導を受けるなどして教職への理解を深めました。

<教職支援課>



## 丸森ひまわりこども園、保育研究大会で優秀発表施設に選出

本学では地域連携事業の一環として、丸森町社会福祉協議会 丸森たんぽぽ・ひまわりこども園を対象に幼児の体力向上事業を行っており、子ども運動教育学科の原田健次教授による園児・教職員を対象とした運動あそび指導や園児の生活リズム調査アンケート等、例年継続して支援を実施しています。

そしてこのたび、令和4年度宮城県保育研究大会及び北海道・東北ブロック選考会において、丸森ひまわりこども園『笑顔と歓声にあふれ、いきいきと遊ぶ子ども～健康な心と体を家庭とともに育てる「ちやれんじかど」の試み～』が優秀発表に選出され、全国保育研究大会に出場することとなりました。

保育研究大会は、全国保育協議会の主催で開催されており、現在の保育をめぐる情勢をふまえ、保育施設の社会的な意義・役割について認識を深め、多様なテーマでの効果的な実践研究を共有し、学び合うことにより、今後の保育の資質向上を目指すことが目的です。

今年度の全国大会は10月20日に山形県で開かれ(オンライン)、出場の24施設中、北海道・東北ブロックからは3施設のみ出場となります。その3施設のなかに、丸森ひまわりこども園が選ばれました。



## 令和4年度仙台大学同窓会根室・釧路支部総会を対面開催

本年度の仙台大学同窓会根室・釧路支部総会は、9月11日（日）に北海道標津町海の公園「標津番屋」を会場に対面にて開催されました。総会には、小島淑子同窓会会長、大学より朴澤泰治理事長、高橋仁学長、そして子ども運動教育学科の北海道標津町研修で学生を同町に受け入れていただいている御縁から、久能和夫教授と柴田も出席しました。



集合写真

総会の冒頭で「同窓生の強い絆を感じる」と朴澤理事長が挨拶すると、高橋学長も「大学としても北海道との絆をより強くしたいと思い、この地に来ました」と熱い思いを同窓生の皆さんにお話になり、小島会長からは、「同窓会の活性化を目指し、皆さまと手を取り合って、その一歩を踏み出したい」と希望に満ちた御言葉が述べられました。久しぶりの対面での開催に参加者の皆さんの語りも熱く、「絆の強まり」をひしひしと感じるひと時でした。

コロナ禍の中、最善の方法を見出して対面での実施を実現して下さった支部の皆様、ありがとうございます。そして、在学生の学外研修の受け入れや教員の研究支援にも、惜しみない愛情を注ぎ続けてくださる標津町の林良彦様（8期生）に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。  
<子ども運動教育学科 教授 柴田千賀子>



お誕生日が近い理事長へ御祝いの一コマ

## 仙台大学大学院の紹介動画を制作しました

このたび仙台大学大学院の紹介動画が完成し、本学YouTube公式チャンネルで公開中です。

本大学院スポーツ科学研究科は、体育・スポーツや健康分野で活躍できる専門的指導者の育成を目指し、2年コース9領域（スポーツコーチング、トレーナー、スポーツマネジメント、健康福祉、運動・スポーツ栄養学、スポーツ情報・マスメディア、現代武道、子ども運動教育、保健体育科教育）と、社会人向けの1年コース3領域（学校体育、スポーツプロモーション、健康体力支援）から構成されています。

今回の動画では、2年コース、1年コースで学ぶ現役生と修了生のインタビューを中心に、本大学院の特色や学びについてご紹介していますのでぜひご覧ください。

<大学院事務課>



## アスリート必見！アメリカの大学ってどんなところ？Part. 2

本学トレーニングセンターのアシスタント・ストレングス&コンディショニング（以下S&C）コーチの星谷勇佑です。今回は、私が研修に来ているノースダコタ州立大学（以下NDSU）のスポーツを取り巻く環境について紹介したいと思います。アメリカでは大学スポーツが日本のプロスポーツと同じくらい盛り上がっています。それに伴ってスポーツ施設やスタッフも充実しています。そんなアメリカの大学ならではのスタジアムとS&Cコーチという専門職について紹介していきます。

### Baseball Stadium（画像1）

最大収容人数は4,419人、総工費は約6億円。バックスクリーンは電光掲示板で、LEDモニターからは選手の映像が映し出されます。また、バックネット裏にはファストフードやアイスなど色々な売店が並んでいます。夏の期間は地元のプロチーム（日本でいう独立リーグ）もこのスタジアムで試合を行い、週末になると大勢の地元ファンが押し寄せとても盛り上がります！

### Football Stadium（画像2）

最大収容人数25,000人。総工費50億円。建物と駐車場を含めた総面積は東京ドーム約4個分です。ノースダコタ州は積雪量が多いためこのスタジアムはドーム式になっており、グラウンドは人工芝になっています。NDSUのアメリカンフットボール部は全米TOPレベルの強さを誇り、その試合を見るために多くのファンが訪れ、毎年10万人以上の来場者数を記録しています。また、人工芝は全面取り外し可能なのでオフシーズンには著名なミュージシャンが訪れコンサートも行っています。

### S&Cコーチ（画像3）

設備の充実はとても大事ですが、そこに携わるスタッフがいなければ成り立ちません。

今回、私の研修先となったのは、全ての部活動のトレーニング指導（主にウェイトトレーニング）を行い、厳しいシーズンを戦い抜くための身体づくりをサポートするS&C部門です。指導を仰いだNDSUのS&Cコーチは、MLBやNFLといったプロリーグに何人もの選手を送り出してきた経歴を持つプロフェッショナルでした。こうしたスタッフの指導のもと、学生アスリートは日々成長していています！



1. Baseball Stadium



2. Football Stadium



3. S&Cコーチら

仙台大学では複数の海外の大学と提携をしているので、在学時にはアメリカに限らず様々な国へ研修・短期留学に行き、多くの学びを得ることができます。また、今回の私がそうでしたが、仙台大学では卒業生に向けた先進的な育成制度も設置しており、海外研修や本学の多数の部活動に対する指導を通してS&Cコーチとして更なるレベルアップをはかることで、その後のキャリアに繋げることができます。今回のレポートで興味を持ってくださった皆さんはぜひ一度仙台大学にいらしてください！

<新助手 星谷勇佑>

## 大会結果／JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 52kg級で中島幸穂が3位入賞



左から銅メダルを獲得した中島幸穂（現代武道学科2年）と南條和恵監督



表彰式の様子

JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月10日、11日に埼玉県武道館で開催されました。

本大会は各地区の予選を勝ち上がった20歳以下、各階級（7階級）19名で杯を争う大会です。

本学からは男子2名、女子4名が東北地区代表として出場しました。

その中で、52kg級に出場した中島幸穂（現代武道2年）は3回戦で第一シードの選手に一本勝ちを収めて準決勝に進出しました。準決勝戦では、お互いがポイントを取り合う試合内容でしたが、あと一步の差で敗退をしました。気持ちを入れ替えて臨んだ3位決定戦では、優勢勝ちを収め、見事銅メダルを獲得しました。

高校生時代の最高成績が千葉県大会2位の彼女が、全日本の扉を開いた瞬間でした。

<柔道部>

## 柔道部／東京五輪女子52kg級金メダルの阿部詩選手が本学で合宿



集合写真



阿部選手との乱取

東京五輪の柔道競技女子52kg級で金メダルを獲得した阿部詩（日体大4年）選手が、10月6日から開催される世界柔道選手権大会（ウズベキスタン・タシケント）に向けた最終の調整合宿として9月20日から23日の間、本学柔道部の稽古に参加しました。

期間中は他の所属選手の参加もあり、柔道部員においては一週間後に控える全日本学生体重別選手権大会（日本武道館）に向けて大きな刺激をいただきました。

また、高橋学長には、阿部選手への激励を兼ねて道場へご登場いただき、熱の入った阿部選手の稽古を見学していただきました。

世界選手権大会での阿部選手の健闘を祈るとともに、我々も全日本大会への準備に入りたいと思います。

<柔道部>

## 仙台大学が天皇杯ファイナルラウンドへの切符を掴む



優勝を果たした仙台大学

令和4年度天皇杯東北ブロックラウンドが9月10・11日(日)に福島トヨタクラウンアリーナで開催されました。この大会は全10チームによるトーナメント方式で行われ、本学から春のリーグ戦で優勝し、推薦枠を獲得した「仙台大学」と県予選を突破した「仙台大クラブ」の2チームが出場しました。共に初戦を勝利し、準決勝では本学同士が対戦しました。フルセットまでもつれる好ゲームになりましたが、仙台大学が勝利しました。

仙台大学は続く決勝でも、勢いそのままに山形選抜に勝利し、12月に開催される天皇杯ファイナルラウンドの切符を掴みました。

結果は以下の通り

初戦

仙台大学 2 (25 - 18、28 - 26) 0 福島

仙台大クラブ 2 (23 - 25、25 - 23、25-20) 1 チーム一庵

準決勝

仙台大学 2 (25 - 15、19 - 25、25 - 14) 1 仙台大クラブ

決勝

仙台大学 2 (33 - 31、13-25、25-21) 1 山形選抜

<男子バレーボール部>

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 53

助手 浅野 勝成

トレーニングで身体に負荷をかけることを続けていくと身体はその負荷に適応します。一方で、軽くこなせる負荷でトレーニングをしていると狙った適応を引き起こせません。そのため、自分がこなせる負荷よりも少し高い負荷で行うことで、狙いとする体力要素の適応を誘発できます。これを過負荷の原理と言います。そして過負荷の原理に基づいてトレーニングを続けていくと、身体はその過負荷に適応します。それが筋力などの体力要素の向上となります。一方で、同じ負荷でトレーニングを延々と続けていけば、体力の更なる向上は期待できません。そのため、適応の段階を見極めて負荷を徐々に上げていく必要があります。これを漸進性の原則と言います。これら二つをまとめて漸進性過負荷の原則とも言います。シンプルに言うと、少しずつ負荷を上げていって身体の適応を引き起こしていくということで、この原則を軸にトレーニング計画を考えます。

漸進性過負荷の原則を軸にしたトレーニングを行うのは、選手からするとチャレンジングです。チャレンジングであるがゆえに、不安に駆られる者もいます。例えば、求められる拳上重量が5kg増えると、“この重さは無理だよ・・・”というような雰囲気を出す者が出てきます。そういった状況下で選手に言うことはいつも同じで、“無理と思うから無理であって出来ると思えば出来る”や“その重さを軽いと思えば出来る”などを言います（もちろん、フォームを見て明らかに危ない場合は下げますし、重量アップの指示も出しません）。それでいざチャレンジしてみると、実際に出来て選手自身も驚きます。このように、チャレンジを後押しすることと成功体験を積ませることも大事にして、身体的・精神的な成長もサポートするよう指導にあたります。

特異性の原理というものもトレーニングを行ううえで抑えておきたい原理です。これは、狙った適応を求めるなら、それに応じたトレーニングを行う必要があることを意味します。しかし、この特異性の原理は間違った解釈でトレーニングをされている場合もあります。間違った解釈とは、キネマティクスだけを見て、キネティクスを見ていない場合に多いです。キネマティクスは「ヒトの動作をみるもの」で角度や速度などをみるもの、キネティクスは「ヒトの動作を生み出すための原因をみるもの」で力発揮をみるものとなります。つまり、キネマティクスを変えるには、その原因となるキネティクスを変える必要があります。このことから、競技動作に負荷を与えて鍛えるというキネマティクスだけで判断したトレーニングは特異性の原理に基づいてないです。例として、やり方次第ですが、加速力を高めたいからゴムチューブで引っ張って走るなどです。その動作の質を高めるにはキネティクス、つまりは力発揮を高める必要があります。そして力発揮を高めるには、正しいフォームと負荷（漸進性過負荷の原則に基づく負荷）で構成されるウエイトトレーニングを行う事でケガなく効果的に達成できます。

この特異性の原理を生徒に理解してもらうのは結構難しいですが、理解できるとトレーニングを行う意味が深く分かるようになり、結果として取り組み方も良い方向に変化します。トレーニング指導において、チャレンジを後押しするだけでなく理論的なことも理解できるようサポートしていくことも大切にしていますが、まだまだ力不足な所が多いため、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。

## ～仙台大学教職員の共通理解事項～

### 仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

#### 建学の精神

##### 「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

#### 基本理念

##### 「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

#### 使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

##### ■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

##### ■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

#### その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

##### ■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

##### ■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

##### ■朴沢学園中期経営計画

##### ■事業計画